

日本人の皮膚老化に対するフラクショナル Q スイッチ Nd:YAG レーザーとフラッシュランプの複合治療：有効性と安全性の検討

山住 賢司, 大慈弥裕之

福岡大学医学部形成外科学講座

要旨：皮膚の色調と質感を改善し、副作用である炎症後色素沈着を予防する目的で、非侵襲的フラクショナルレーザーとフラッシュランプ光治療を組み合わせた複合的若返りレーザー治療を行った。治療前後における客観的および主観的評価を行い、有効性と安全性を検討した。

対象と方法：35歳以上の日本人女性 25 名を対象とした。Fitzpatrick Skin Type 分類により、Type III 群（12 名）と Type IV 群（13 名）の二群に分けた。治療は、非剥皮的フラクショナルレーザーとフラッシュランプ光をそれぞれ定期的に計 6 回顔面に照射した。治療前後に顔面画像解析装置と分光光度計を用いて、しみ、健常皮膚色、しわ、きめ、毛穴の客観的評価を行った。さらに炎症後色素沈着の有無を調査した。

結果：複合的治療により Type III 群、IV 群ともにしみ、きめ、毛穴に関して有意な改善を認めた。しわも改善傾向を示したが、統計学的有意差は認めなかった。軽度の炎症後色素沈着を合計 4 名認めたが、半年以内に消退した。

考察：表皮損傷なく真皮の治療を行う非剥皮的フラクショナルレーザーと、表皮の治療を行うフラッシュランプ光を組み合わせることで、皮膚の質感と色調を同時に改善させることが可能であった。本複合的治療は有効性と安全性が高く、日本人を含めたアジア人に有用な若返り治療法になると考えた。

キーワード：若返り治療, 皮膚老化, フラクショナルレーザー, Q スイッチレーザー, 光治療